

島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会の審議状況について

島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会の審議状況について報告します。

■ 島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会の審議状況

- ◆第1回委員会(令和6年7月25日開催)では、エリア内の関係施設も見た上で、エリア全体を一度に開発するのではなく、まずはエリアを各ゾーンに区分して、3つのゾーン(グループ)に分け、道の駅と公園が一体となった「交流拡大ゾーン」については、増加傾向の道の駅 ユーザーに応えるべく、「民間を活用した機能拡充をまず優先的に検討していく」

という「大きな方向性」などについて、意見交換を踏まえて確認した。



- ◆令和6年度9月補正予算 「交流拡大ゾーン」での官民連携による事業化・手法の検討を進めるための専門的な調査等 (25,000千円)

専門的な調査等として、まず「出口調査アンケート」で利用者のニーズや課題を分析。「関連事業者ヒアリング」でエリアの課題や機能拡充に向けたアイデアを収集・整理。

- ◆第2回委員会(令和7年1月28日開催)までで、道の駅機能拡充の検討に向けて

- ① 「海の京都宮津」という名称と現在の提供内容にギャップがあること
 - ② 現在の広いニーズを受け止め道の駅としての一体感を出していく必要があること
 - ③ 道の駅と周辺を一体として捉えソフト面の活用も念頭に連携する必要があること
- などについて、意見交換を踏まえて確認した。

＜出口調査アンケートや関連事業者ヒアリングも踏まえた整理結果＞

強みの再確認	ギャップの確認	検討の糸口
海が魅力 立地条件が良い 本エリアの活かすべき強みとして「海に面しているロケーション」等がある。	もっと魚・海鮮があると思った。 宮津まごころ市が思ったより小さかった。 入店しても素通りしている人がある	気軽に食べられるイートイン 飲食店を増やしてほしい。 文珠等の周辺観光地との連携

＜交流拡大ゾーン(C-2・Dエリア)に関して(第1回委員会での主な意見)＞



第2回委員会での主な追加意見
 ▶ 増えつつあるインバウンドへの対応
 ▶ 食べ歩きニーズへの対応
 ▶ ペット連れ利用者ニーズへの対応
 ▶ 市街地への回遊(ITやソフト面の工夫も)

- ◆令和6年度3月補正予算 専門的な調査等の予算に係る繰越明許費の設定(3/19可決)

- ◆第3回委員会(令和7年3月24日開催)では、

- ① 施設テーマ(土台)とコンテンツ(内容)をつなぐ「コンセプト(軸)」の明瞭化

※土台が「海の京都宮津」や観光振興に係る情報発信機能で、内容は民間事業者の活力(アイデア・ノウハウ)の発揮どころである中、コンセプト(軸)の案として、
 1. 十分な規模の道の駅で国内外の多くの人と賑わいを生む
 2. 道の駅を宮津の海・歴史の入り口として機能させる
 3. 宮津をきっかけとした海の京都旅行の思い出を持ち帰って頂く
 をたたき台として提示

- ② 交通量等(利用者数が14万人/年から40万人/年、売上が5億円/年と期待されること)を踏まえると現在の3倍(1,500㎡)以上が想定される「施設の規模」の検討
 ※直売所や飲食施設は少なくとも倍程度の拡充が必要としてたたき台を提示

- ③ 複数の民間事業者からの参画意欲が確認できている中、「民間活力の活用を前提とした事業スキーム」の検討

※DBO方式、指定管理者制度継続で、設計・建設に2年、維持管理・運営期間を15年想定としてたたき台を提示

などについて、専門的な調査等の経過報告をもとに、意見交換を行った。

＜第3回委員会での主な意見から＞

- ◆コンセプトについては、「道の駅であるけれども、海に面したエリアにあるのが特徴なので、海をもう少し前面にだす視点も。」「海の京都だけでなく、市の歴史・風土・文化も含めた複合的な魅力を入れた視点も。」「コンセプトを一言でわかりやすく伝える工夫が必要。あらゆることを道の駅だけでできるわけではないので、道の駅で何をすべきか何をすべきでないのかを含めてコンセプトを整理しておく必要がある。」などの意見があった。

- ◆施設の規模の検討においては「施設配置は民間事業者の提案をもとにということであるが、現在の芝生広場を活かし、海側が現在の場所をベースに上手く調整が必要」「直売所拡張は生産者としてもうれしい。」「規模を大きくする必要はあるが、中心市街地にある道の駅として市街地の飲食店との共存共栄を図っていくことを踏まえたものにする必要が。」「飲食施設が昼も夜もフルで営業するのが難しいことは理解できる。」「駐車場についての整理が必要」などの意見があった。

- ◆民間活力の活用を前提とした事業スキームの検討においては、「今回の委員会ではDBO方式、指定管理者制度継続の想定での報告であったが、他のスキームも含め次回の集約の際にはまとめて示してほしい」などの意見があった。

■ 今後(当面)の予定

- ◆次回委員会開催まで：これまでの委員会も踏まえた上で専門的な調査等を継続

- ◆令和7年6月(予定)：第4回委員会(道の駅の機能拡充の方向性の一定のとりまとめ)

※適宜、進捗状況について「市民へのお知らせ」を行うなど、市民意向も確認する

※島崎・浜町ウォーターフロントエリア
 活性化検討委員会の会議資料・会議録
 については市ホームページにて公開中

